

1. 背景と目的

カザフスタン共和国は、272.7 万 Km²の広大な国土をもちロシア、中国、中央アジア諸国と隣接し石炭石油や稀少金属を含む鉱物資源に恵まれる国である。ナザルバエフ大統領の強力な指導力のもと、国の長期的な政策方針である「2030 年までの長期発展戦略」に基づき、経済改革が進められ近年は高い経済成長率により「経済移行国」を脱し、「市場経済国」として国際経済競争の中に入りつつある。

また、同国では、カスピ海地域沿岸における石油等の豊富な埋蔵量から、国際エネルギー市場の重要な供給者となることが期待され、エネルギー資源開発が進められ、日本企業も参加している。その一方で、地域間および業種間の所得格差が社会的問題として浮上しており、旧ソ連時代に進められた環境に無配慮な政策や近年の資源開発等により水資源問題、砂漠化および工業地帯、都市部での大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等の環境問題が顕在化している。

このような状況を踏まえ、本調査では環境分野における現況、環境関連法規・環境行政等の状況等について調査を行うとともに、我が国の対カザフスタン ODA の戦略性・効率性・透明性の向上への取組に資することを目的とする。